



栃木県公共事業再評価 概要書

【県土整備部 河川事業】

事業名	安全な川づくり事業
事業箇所	一級河川 思川 L = 11,400m 小山市 <small>くろもと</small> 黒本地先～栃木市都賀町 <small>つがまちいえなか</small> 家中地先
事業主体	栃木県
事業担当課	県土整備部 河川課

事業の概要

【現況】

目標事業期間 (変更前)	平成22年度～令和13年度 (平成22年度～令和8年度)
事業経過	平成22年度 事業化 平成22年度 用地着手 平成22年度 工事着手 令和元年度 事業再評価
全体事業費 [うち用地補償費]	20.0 (18.5) 億円 [2.8 (2.8) 億円] ※ () は前回計画時
事業延長 [うち整備済延長]	L = 11,400m [L = 6,160m]
進捗率	基準年次：【令和6年度末時点】 費用 進捗率 既投資事業費 9.8億円 49% [うち用地補償費 1.0億円 36%]

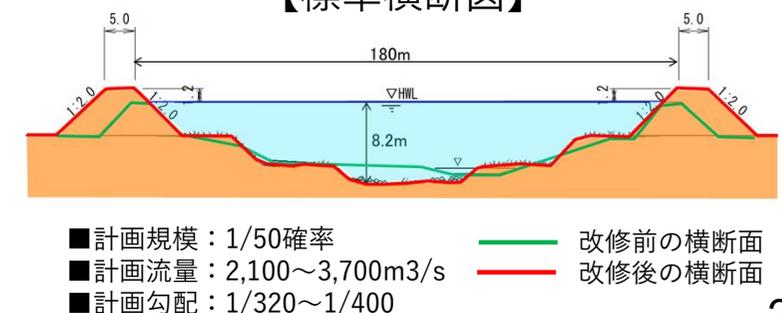
【目的】

一級河川思川は、本県の中央部から南部へ流下しながら、黒川、姿川などの支川が合流し、渡良瀬遊水地に流入する河川である。
 本事業区間は、姿川合流点（小山市黒本）から雷電橋（栃木市都賀町家中）までの区間であるが、流下能力が不足しているため、豪雨時には宅地や農地等に浸水被害が生じている。
 このため、本事業は、掘削や築堤等により、河道断面の拡大を図り、氾濫を防止し被害の軽減を図るものである。

【事業概要図】



【標準横断面図】

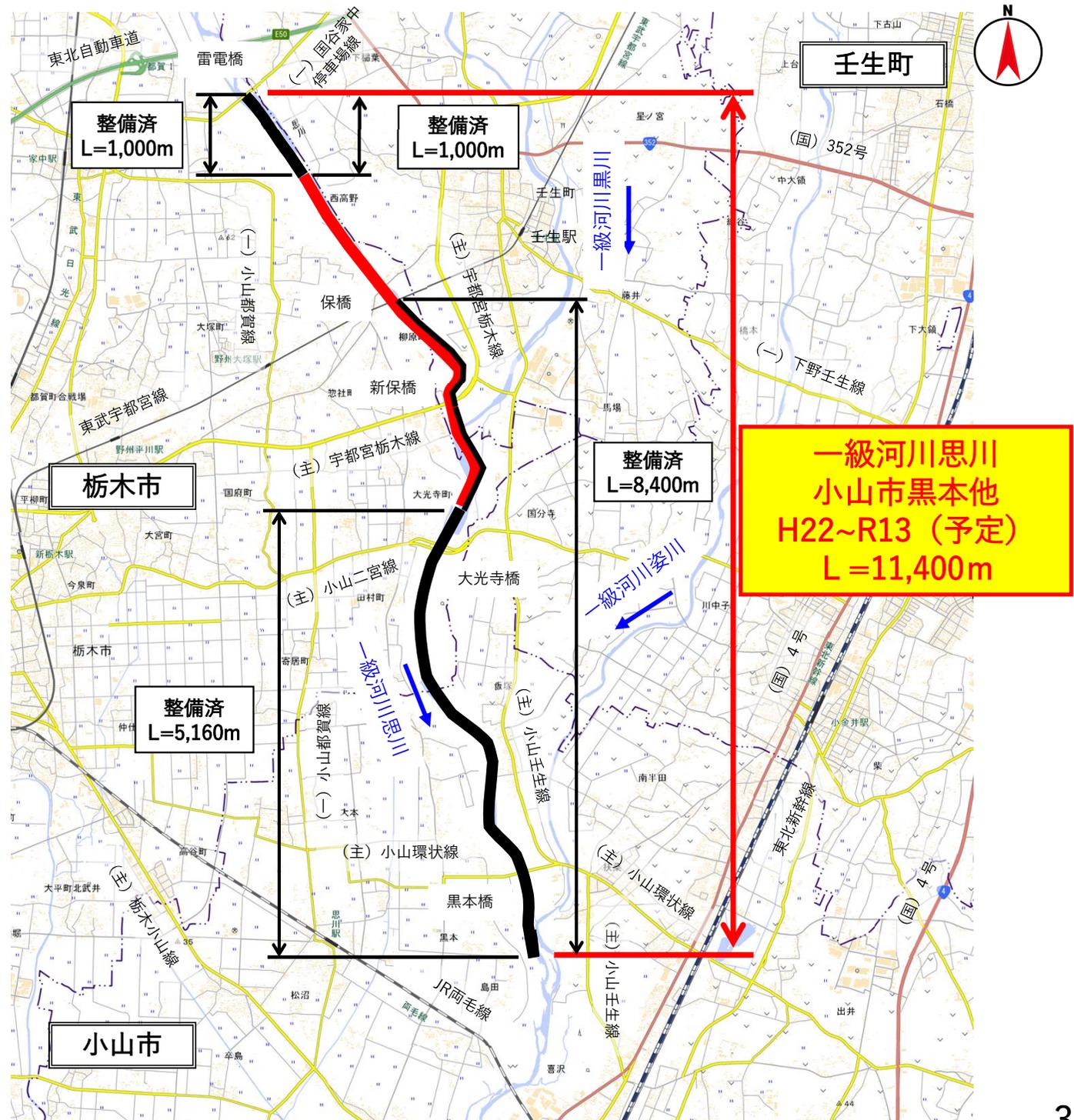


事業の概要

【箇所の概要】



凡例	
事業箇所	
事業済箇所	



II 事業の評価

【今後の事業進捗の見込み】

- ・ 事業期間の見直し
令和8年度 ⇒ 令和13年度
- ・ 総事業費の見直し
18.5億円 ⇒ 20.0億円

【全体事業費の見直し】

		前回計画 (R1年度)	今回計画
	事業費	18.5億円	⇒ 20.0億円 (+ 1.5億円)
内	工事費	15.7億円	⇒ 17.2億円 (+ 1.5億円)
訳	用地補償費	2.8億円	⇒ 2.8億円 (+ 0.0億円)

【事業の投資効果】

1 費用対効果分析結果

	B / C	総便益 (B)	総費用 (C)
(1) 事業全体	8.7	209.8億円	24.1億円
(2) 残事業	7.0	61.6億円	8.9億円

2 事業の整備効果等

- ・ 計画規模 1 / 50 の降雨で想定される宅地、道路や農地の浸水被害が解消される。
- ・ 河川断面の拡大による河岸・水際部の整備にあたっては、現況の瀬や淵を極力保全するとともに、水際に植生が繁茂できるように配慮し、生物の生息・生育・繁殖環境の多様性に配慮する。

II 事業の評価

【事業の進捗状況等】

※令和6年度末時点

1 事業の進捗状況

全体事業進捗率	49%
用地	36%
工事	51%

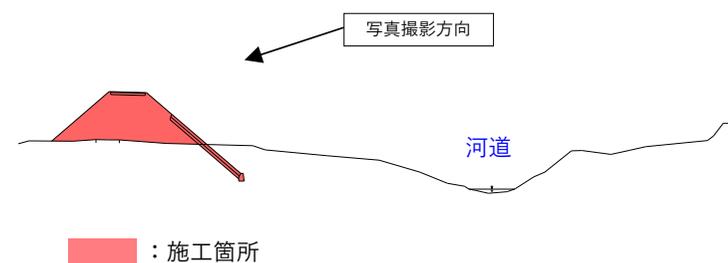
2 今後の事業進捗の見込み

- 用地取得、工事を推進し、令和13年度を目標に事業完了を図る。

飯塚地内（築堤、護岸）



横断図



【コスト縮減等】

1 コスト縮減方策

- 河川の掘削土砂を築堤材として活用し、コストの縮減を図る。
- 他事業と調整し、建設発生土の事業間連携を図る。

2 代替案立案等の可能性

- 河川整備に必要な事業用地は36%取得済みである。また、代替案として遊水地や放水路を整備することが考えられるが、工事に要するコスト等を考慮した場合、有利となる本計画が最適である。

【事業の対応方針（案）】

- 本計画で事業を継続する。